

# **第1回策定委員会**

## **説明資料**

# むつ総合病院新病棟建設基本構想案



第1回策定委員会 令和2年8月26日（水）

## 新病棟建設に向けてのコンセプト

新病棟の建設においては、以下6項目のコンセプトを、むつ総合病院における基本事項として認識し、新病棟の機能のみならず、現診療棟から、併設する各種機能の環境整備を合わせて計画する。

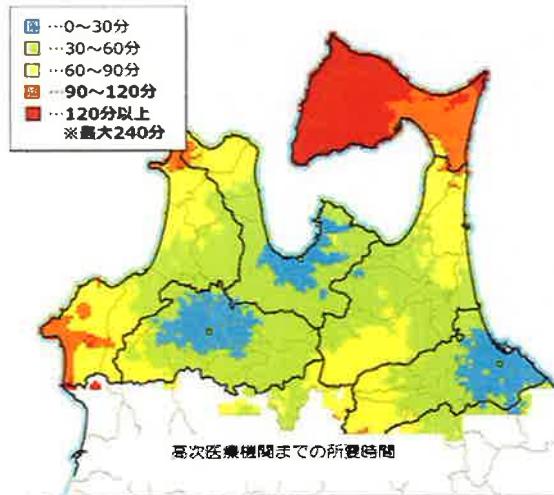


1. 医療環境の変化を見据えた機能の向上
2. 大災害（自然災害、原子力災害、新興感染症等）対応拠点としての整備
3. 高度先進医療、がん治療の推進
4. 高齢者医療、予防医療、患者・家族支援の推進
5. 患者・職員満足度の高い環境の整備
6. 金谷公園との一体的な機能の整備

## 大きな柱1 医療環境の変化を見据えた機能の向上

### 【下北地域及びむつ総合病院の現状】

- 受療動向は、高度急性期患者の約40%が、急性期・回復期・慢性期患者の約25%が圏域外で受療している。
- 圏域内で発生した年間3,000件の救急搬送のうち、約95%は圏域内医療機関に搬送されている。うちむつ総合病院が85%である。中等症で約5%、重症では約15%が圏域外へ搬送されてる。
- 高速交通網の未整備により、三次救急医療機関まで、救急車で約2時間以上かかる場合がある。



下北地域保健医療圏域における救急搬送件数の将来推計

現状救急搬送	2015年	下北地域医療圏 合計	傷病程度別				傷病程度別
			軽症	中等症	重症	死亡・不明	
将来需要推計 (救急搬送)	2020年	3,054件	1,391件	999件	548件	116件	1,602件
	2025年 (対2015年)	3,052件 102.1%	1,367件 98.5%	1,011件 105.5%	554件 103.9%	120件 108.1%	1,685件 105.2%
	2030年 (対2015年)	3,021件	1,317件	1,019件	560件	125件	1,704件 106.4%
	2035年 (対2015年)	2,958件	1,254件	1,019件	558件	127件	1,704件 106.4%
	2040年 (対2015年)	2,845件 95.2%	1,188件 85.6%	988件 103.1%	541件 101.5%	128件 115.3%	1,657件 103.4%
	2045年 (対2015年)	2,646件 88.5%	1,102件 79.4%	919件 95.9%	504件 94.6%	121件 109.0%	1,544件 96.4%

上北地域消防・下北地域消防「救急搬送状況データ(2015年度(平成27年度)年齢階級×傷病程度別)」及び  
国立社会保障・人口問題研究所「年齢(5歳)階級別の推計結果」(2018年(平成30年)3月推計)から算定

## 大きな柱1 医療環境の変化を見据えた機能の向上

### (1) 地域完結型医療の推進

むつ下北地域唯一の二次医療機関として、手術室、救急治療室、集中治療室や感染治療室等の整備に加え、高度医療機器を整備することで、**地域完結型の高度医療を提供する。**



## 大きな柱1 医療環境の変化を見据えた機能の向上

### 【下北地域及びむつ総合病院の現状】

- 急性期などの区分別病床数と現状とのバランスが一致しているとは言えない。  
**病院の病床利用率** 【急性期病床：60～90% 慢性期病床：90%】  
**有床診療所の病床利用率** 【急性期病床：00～50% 回復期病床：80%】
- むつ総合病院の急性期病床では、30日超の入院患者が半数を占めている。
- 青森県地域医療構想では、下北地域の回復期病床は100床以上の不足が指摘されている。

青森県地域医療構想

(単位：床)

	H29 病床機能報告	H30.7.1 病床機能報告	R1.7.1 病床機能報告	R7.7.1 病床機能報告 (見込み)	R7 必要病床数
高度急性期	6	6	6	6	39
急性期	418	359	359	359	162
回復期	0	59	59	59	168
慢性期	120	120	120	80	84
休棲中	0				
休棲中 (再開予定無)	0	0	0		
休棲中 (再開予定無)	0	0	0		
有床診療所	76	95	95	95	
合計	620	639	639	599	453

令和元年度病床機能報告を基に集計

下北地域保健医療圏域の医療機関の状況

医療機関名	病床数		年間入院患者数		病床稼働状況		
	許可病床	稼働病床	新規入院数	延患者数	入院数/日	対許可病床	対稼働病床
むつ総合病院	376	312	5,658	104,068	285.1	75.8%	91.4%
むつリハビリテーション病院	120	120	207	39,493	108.2	90.2%	90.2%
大間病院	48	48	609	11,377	31.2	64.9%	64.9%
大畠診療所	10	3	0	9	0.0	0.2%	0.8%
川内診療所	19	19	136	3,380	9.3	48.7%	48.7%
東通村診療所	19	19	392	5,284	14.5	76.2%	76.2%
むつレディスクリニック	19	14	513	1,601	4.4	23.1%	31.3%
中村眼科	9	9	86	86	0.2	2.6%	2.6%
田村胃腸科内科医院	19	未報告	未報告	未報告			

2017年(平成29年)病床機能報告より作成

## 大きな柱1 医療環境の変化を見据えた機能の向上

### (2)急性期医療+回復期医療の整備

むつ総合病院は、高度急性期から急性期医療を中心としつつも、**回復期リハビリテーション病棟の新設**など、むつ下北地域で不足が指摘されている回復期医療の一翼を担うものとする。



## 大きな柱1 医療環境の変化を見据えた機能の向上

### 【下北地域及びむつ総合病院の現状】

- 病棟構成が6床室主体であり、性別、疾患別によるベッドコントロールが非常に難しい状況である。
- 個室（個室率10%）が少なく、感染症発生時（インフルエンザ等）など、隔離対応できない状況である。
- 入院患者の将来需要は、2030年（令和12年）まで、ほぼ横ばいで推移するが、その後は減少すると予想されている。



入院需要		下北地域医療圏 合計	むつ市	東通村	北通地区			
将来需要推計 (入院)	2015年	846人/日	648人/日	80人/日	118人/日	60人/日	27人/日	31人/日
	2020年	853人/日	663人/日	78人/日	112人/日	58人/日	25人/日	29人/日
	2025年 (対2015年)	863人/日 102.0%	680人/日 104.9%	75人/日 93.7%	108人/日 91.3%	57人/日 95.1%	24人/日 89.8%	27人/日 88.8%
	2030年	860人/日	681人/日	75人/日	104人/日	56人/日	23人/日	25人/日
	2035年	825人/日	657人/日	73人/日	95人/日	52人/日	20人/日	23人/日
	2040年 (対2015年)	774人/日 91.5%	621人/日 95.9%	68人/日 84.2%	85人/日 72.0%	48人/日 79.9%	18人/日 64.9%	19人/日 63.5%
	2045年 (対2015年)	717人/日 84.8%	581人/日 89.7%	62人/日 76.8%	74人/日 62.7%	42人/日 71.4%	15人/日 54.0%	17人/日 55.2%

## 大きな柱1 医療環境の変化を見据えた機能の向上

### (3)可変的に対応可能な病棟と病室構成

病棟及び病室は、ユニバーサルデザインを基に、多床室を将来個室に変更可能な設計とし、  
今後の医療需要の変化に、柔軟に対応可能な施設とする。



## 大きな柱2 大災害（自然災害、原子力災害、新興感染症等）対応拠点としての整備

### 【下北地域及びむつ総合病院の現状】

- 病棟（旧耐震構造建物）の安全性の確保と医療機能の持続性（BCP）の確保が必要である。
- 雪寒地である地域性を踏まえると屋内災害活動スペースが不足している。
- 地域の特性上、大災害時のライフライン復旧時間の長期化が懸念される。
- 現施設はスペースが少なく、食料・飲料水・医薬品の備蓄が十分では無い。



大きな柱2 大災害（自然災害、原子力災害、新興感染症等）対応拠点としての整備

## (1) 医療提供の継続可能な施設・設備

**地域災害拠点病院**として、大地震に耐え得る免震構造とし、低層階の多目的ホールは医療配管を備えた災害発生時のトリアージ・治療エリアとする。食料・医薬品などの**備蓄倉庫の整備**に加え、非常用発電装置の設置や風力及び太陽光パネル等での自然エネルギーの検討など、**医療提供の継続可能な施設**を整備する。



## 大きな柱2 大災害（自然災害、原子力災害、新興感染症等）対応拠点としての整備

### 【下北地域及びむつ総合病院の現状】

- ・ むつ総合病院は、原子力施設がUPZ（半径30km）にある地域唯一の中核病院。
- ・ 汚染等傷病者のスムーズな初期診療・除染および救急診療を実施するための設備不足。

緊急被ばく対応訓練の様子



大きな柱2 大災害（自然災害、原子力災害、新興感染症等）対応拠点としての整備

## （2）原子力災害発生時に対応出来る設備

県が指定する原子力災害医療機関として、原子力災害発生時において、クイックサーベイや除染等の初期医療対応ができる施設を整備する。



## 大きな柱2 大災害（自然災害、原子力災害、新興感染症等）対応拠点としての整備

### 【下北地域及びむつ総合病院の現状】

- 平成20年には感染対策室を新設し、近隣病院・診療所と連携し、相互にラウンドすることで、感染対策に生かすなど、組織的に感染症対策を進めてきた。
- 一方、施設面では、現在ある感染病棟4床（昭和36年建設）は老朽化が著しい。
- 感染症が疑われる患者と他を明確に分ける区分け（ゾーニング）や院内感染防止の対応が必要。

新型インフルエンザ対応訓練の様子



大きな柱2 大災害（自然災害、原子力災害、新興感染症等）対応拠点としての整備

### （3）院内感染等の新興感染症に対応できる設備

下北地域保健医療圏域における唯一の第二種感染症医療機関として、初診室、検査室、陰圧室、患者動線へのゾーニングに配慮した院内感染や新興感染症へ迅速に対応可能な施設を整備する。



## 大きな柱3 高度先進医療、がん治療の推進

### 【下北地域及びむつ総合病院の現状】

- 遠隔地にある為、大都市部と同じような医療サービスを受ける事が難しい。
- 症例数が少ないために、最先端医療を実施可能な医療従事者の常時確保が難しい。
- 下北地域唯一の二次医療機関として、すべての患者を受け入れ対応している。

	医師偏在 指標	区分	目標医師数 (2023年)
全国	239.8	—	—
青森県	173.6	医師少数県	2,896
津軽地域	237.4	医師多数区域	846
下北地域	151.8	医師少数区域	107

令和2年 青森県地域医療構想調整会議より引用

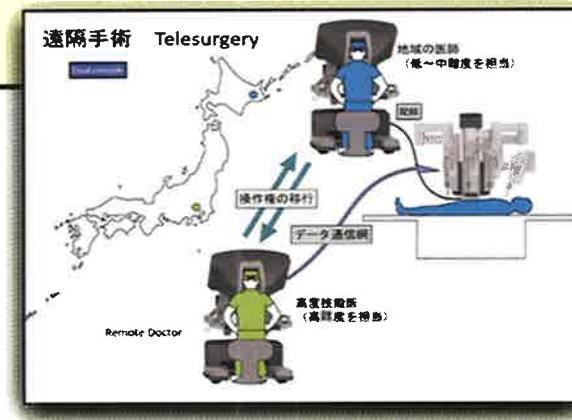


## 大きな柱3 高度先進医療、がん治療の推進

### (1)高度先進医療の推進

最先端医療を提供するため、患者の負担がないダ  
ビンチ等の手術支援ロボットや、手術映像管理シス  
テム等を備えた手術室を整備する。

弘前大学と連携し、情報通信機器を用いた遠隔医療  
体制の構築を図る。



## 大きな柱3 高度先進医療、がん治療の推進

### 【下北地域及びむつ総合病院の現状】

- 年間45,000人の外来がん患者と6,000人の入院患者の診療にあたっている。
- がん患者に対する手術件数は300件、薬物療法550人、放射線治療231人となっている（※2018年実績）
- 医師、がん化学療法認定看護師に加え、薬剤師や栄養士や臨床心理士などの多職種からなる緩和ケアチームを組織し、がん患者が抱える悩みや痛みなどを緩和できるようサポートしている。
- 現在の化学療法室は、改築して整備したもので、手狭かつ老朽化が進んでいる。



現在の化学療法室

下北地域保健医療圏域における疾患別入院患者数の将来推計

疾患名	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	変動率
I 癌瘍性	19.3	19.9	21.1	21.8	21.2	20.0	18.6	-4%
II 新生児	110.1	111.8	110.8	108.5	103.7	95.8	90.7	-18%
III 肺癌	2.7	2.8	2.9	3.0	2.9	2.6	2.6	-6%
IV 内分泌	19.0	19.3	19.3	19.2	18.3	17.3	16.2	-15%
V 脳腫瘍	170.8	167.4	159.9	151.2	142.2	132.1	121.3	-29%
VI 神経系	83.8	85.8	89.5	91.3	88.3	83.0	77.1	-8%
VII 肝臓	6.1	6.0	6.1	6.2	5.9	5.4	4.9	-20%
VIII 胃	1.0	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	0.9	-8%
IX 動脈瘤	147.6	152.8	160.4	164.5	160.0	151.3	141.0	-4%
X 呼吸器	53.8	56.1	60.3	63.1	61.4	58.1	54.2	1%
XI 消化器	45.0	45.4	45.8	45.8	43.9	41.3	38.4	-15%
XII 肾臓	5.5	5.4	5.4	5.3	5.1	4.8	4.4	-20%
XIII 脊髄筋	47.8	48.7	49.1	48.6	46.5	43.9	40.7	-15%
XIV 脳膜	26.6	26.8	27.6	28.0	26.9	25.4	23.5	-12%
XV 呼吸器	17.3	14.6	12.8	11.3	9.4	8.0	6.9	-60%
XVI 肝臓	2.3	2.0	1.7	1.5	1.3	1.1	1.0	-57%
XVII 先天奇形	4.2	3.7	3.3	3.0	2.6	2.3	2.0	-52%
XVIII 胃腸結核	6.6	6.7	7.0	7.3	7.1	6.6	6.1	-7%
XIX 肺嚢胞症	73.4	74.8	76.7	77.4	74.6	70.2	65.0	-11%
XX 肝臓疾患	2.1	2.0	1.9	1.8	1.7	1.5	1.4	-34%
合計	845	853	863	860	824	772	717	-15%

変動率は、2015年患者数に対する2045年の患者数変動率。

10%以上の減少 20%以上の減少 40%以上の減少

下北地域保健医療圏域における疾患別入院患者数の将来推計

疾患名	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	変動率
I 癌瘍性	19.3	19.9	21.1	21.8	21.2	20.0	18.6	-4%
II 新生児	110.1	111.8	110.8	108.5	103.7	95.8	90.7	-18%
III 肺癌	2.7	2.8	2.9	3.0	2.9	2.6	2.6	-6%
IV 内分泌	19.0	19.3	19.3	19.2	18.3	17.3	16.2	-15%
V 脳腫瘍	170.8	167.4	159.9	151.2	142.2	132.1	121.3	-29%
VI 神経系	83.8	85.8	89.5	91.3	88.3	83.0	77.1	-8%
VII 肝臓	6.1	6.0	6.1	6.2	5.9	5.4	4.9	-20%
VIII 胃	1.0	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	0.9	-8%
IX 呼吸器	147.6	152.8	160.4	164.5	160.0	151.3	141.0	-4%
X 呼吸器	53.8	56.1	60.3	63.1	61.4	58.1	54.2	1%
XI 消化器	45.0	45.4	45.8	45.8	43.9	41.3	38.4	-15%
XII 肾臓	5.5	5.4	5.4	5.3	5.1	4.8	4.4	-20%
XIII 脊髄筋	47.8	48.7	49.1	48.6	46.5	43.9	40.7	-15%
XIV 脳膜	26.6	26.8	27.6	28.0	26.9	25.4	23.5	-12%
XV 呼吸器	17.3	14.6	12.8	11.3	9.4	8.0	6.9	-60%
XVI 肝臓	2.3	2.0	1.7	1.5	1.3	1.1	1.0	-57%
XVII 先天奇形	4.2	3.7	3.3	3.0	2.6	2.3	2.0	-52%
XVIII 胃腸結核	6.6	6.7	7.0	7.3	7.1	6.6	6.1	-7%
XIX 肺嚢胞症	73.4	74.8	76.7	77.4	74.6	70.2	65.0	-11%
XX 肝臓疾患	2.1	2.0	1.9	1.8	1.7	1.5	1.4	-34%
合計	845	853	863	860	824	772	717	-15%

変動率は、2015年患者数に対する2045年の患者数変動率。

10%以上の減少 20%以上の減少 40%以上の減少

## 大きな柱3 高度先進医療、がん治療の推進

### (2)がん医療の推進

国が指定する地域がん診療病院として、外科的治療、放射線治療、抗がん剤治療を継続しつつ、薬剤科と併設し、リラックスした環境での治療が受けられる化学療法室を整備する。



## 大きな柱4 高齢者医療、予防医療、患者・家族支援の推進

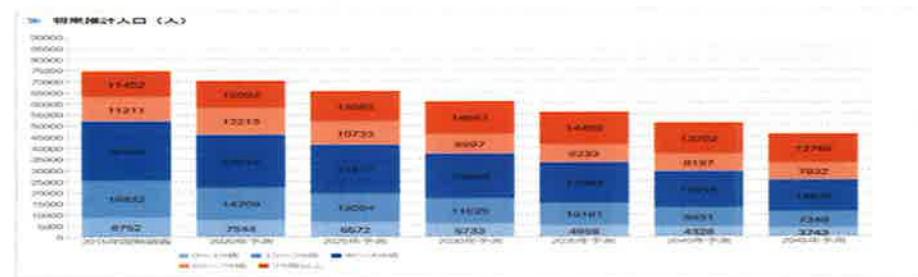
### 【下北地域及びむつ総合病院の現状】

- 2015年（平成27年）には30.4%であった高齢化率は、2025年（令和7年）には37.2%、2040年（令和22年）は43.1%、2045年（令和27年）は45.2%になると推計されている。
- むつ総合病院における入院患者及び外来患者の約60%が高齢者となっている。
- 高齢化の進展に伴い、骨粗鬆症、認知症、動脈硬化症、感染症などの増加が今後見込まれる。

下北地域保健医療圏域の高齢者人口及び高齢化率の推移

年齢階層	国勢調査		将来推計人口				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
年少人口(0~14歳)	8,752人	7,544人	6,572人	5,733人	4,959人	4,328人	3,743人
生産年齢人口(15~39歳)	16,832人	14,709人	13,004人	11,625人	10,191人	8,631人	7,349人
生産年齢人口(40~64歳)	26,204人	23,534人	21,577人	19,698人	17,963人	15,918人	13,976人
高齢者人口(65歳以上) (高齢化率)	22,663人 30.4%	24,305人 34.7%	24,326人 37.2%	23,658人 39.0%	22,702人 40.7%	21,889人 43.1%	20,698人 45.2%
後期高齢者人口(75歳以上=高齢)	11,452人	12,092人	13,593人	14,661人	14,469人	13,702人	12,766人
総人口	74,451人	70,092人	65,479人	60,714人	55,815人	50,766人	45,766人

国立社会保障・人口問題研究所:将来推計人口(2018年(平成30年)3月)より作成



日本医師会:地域医療情報システム(JMAP)より抜粋

下北地域保健医療圏域の年齢階層別人口の予測

## 大きな柱4 高齢者医療、予防医療、患者・家族支援の推進

### (1)高齢者医療の充実

高齢化に伴う医療環境の変化に対応すべく、脳血管疾患や大腿骨骨折などの患者に、集中的にリハビリテーションを実施し、早期の自宅復帰を目指す「回復期リハビリテーション病棟」を新設する。認知症疾患医療センターとして、ますます増える認知症患者に関する相談、診断、連携機能を強化するなど、高齢者医療の充実を図る。



## 大きな柱4 高齢者医療、予防医療、患者・家族支援の推進

### 【下北地域及びむつ総合病院の現状】

- 青森県の平均寿命は全国最下位で、予防医療が喫緊の課題である。
- 健診などを担う健診保健科は、施設が狭隘であること、担当常勤医が不在であることから、受付を制限しながら、実施している。
- 地域住民の健康診断受診率が低迷している。
- 地域特有の食生活により、生活習慣病疾患が多い。



## 大きな柱4 高齢者医療、予防医療、患者・家族支援の推進

### (2)予防医療の充実

各種健康診断を行う健診保健科の充実を図るほか、病院スタッフによる健康セミナーや運動指導が出来る多目的ホールを整備するなど、**地域住民の健康寿命を延ばす予防医療**の充実を図る。



## 大きな柱4 高齢者医療、予防医療、患者・家族支援の推進

### 【下北地域及びむつ総合病院の現状】

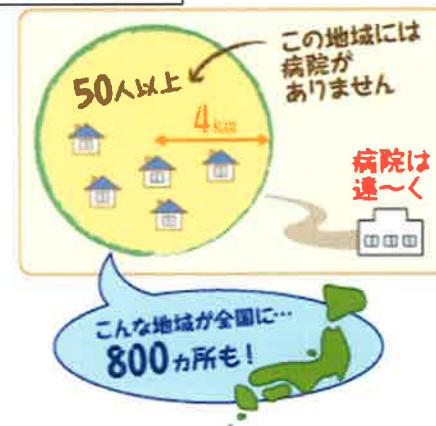
- 地域の大きな問題として、転院・受け入れ先の病院、介護施設が少ない状況である。
- 単身高齢者世帯の増加などで、退院先の確保に苦慮するケースが多い。
- むつ総合病院の在宅復帰率は平均75%程度で、入院・退院への年間相談件数は平均9,000件程度で推移している。



### へき地とは

小  
不

條  
る  
て



## 大きな柱4 高齢者医療、予防医療、患者・家族支援の推進

### (3)患者・家族支援の充実

地域包括ケアシステムの一端を担うため、医療・介護・福祉に関する患者やその家族の相談・支援をワンストップで提供できる入退院支援センターを新設する。むつ市在宅医療介護連携支援センターとして、病病連携・病診連携の強化やICTを活用したへき地診療の推進、応援を検討する。



## 大きな柱5 患者・職員満足度の高い環境の整備

### 【下北地域及びむつ総合病院の現状】

- 食堂や売店などの患者利便施設、生活施設等が不足している。
- トイレ、病室など各施設が狭隘化、老朽化している。
- 全体的に駐車場が手狭で、特に早朝の駐車場が混雑している。



### 住民意識調査

回答者総数	1114	1000%
車いすでの移動しやすく広く余裕のある病室・トイレ・廊下の整備	640	57.5%
ゆとりのある待合室や診察室または相談室の整備	468	42.0%
食堂、売店、各種の利便施設の充実	463	41.6%
救急患者に迅速かつ柔軟に対応できる救急処置室	415	37.3%
患者、家族のプライバシーに配慮した施設	413	37.1%
自動再来受付機や診療・会計など待つ時間表示システムの充実	404	36.3%

## 大きな柱5 患者・職員満足度の高い環境の整備

### (1)患者満足度の高い環境作り

広い病室、廊下、トイレ、シャワー、面談室を整備し、エレベーターの専用化など、入院時に快適に過ごせる療養環境を整備するとともに、手狭である駐車場を整備するなど、患者満足度の高い施設を整備する。



## 大きな柱5 患者・職員満足度の高い環境の整備

## 【下北地域及びむつ総合病院の現状】

- ・ 医師をはじめ、医療スタッフ（薬剤師、看護師等）が常に不足している状況である。
  - ・ 職員の福利厚生施設や使いやすいアメニティ施設が不足している。
  - ・ 医療スタッフ専用の休憩場所が不足している。
  - ・ 医師、看護師をはじめ、子育て世代職員の働きやすい環境が整っていない。
  - ・ 職員専用駐車場が近隣になく、不便でかつ不足している。

## 院内保育所に関する職員アンケート

回収率	配布数	753	72.8%
	回収数	548	
院内保育所の 利用意向	利用する	83	15.1%
	条件次第で利用する	78	14.2%
	利用しない	184	33.6%
	わからない	104	19.0%

## 大きな柱5 患者・職員満足度の高い環境の整備

### (2) 職員が希望を持って働ける環境整備

作業環境控向上のためのシャワー室を備えた更衣室やチーム医療推進のため、コミュニケーションを誘発する専用ラウンジなどのスタッフ交流の場を整備する他、医療従事者が安心して働くよう院内保育所の新設も検討しつつ、全ての病院職員がそれぞれの専門性を最大限発揮でき、かつ希望を持って働く環境を整備する。



## 大きな柱6 金谷公園との一体的な機能の整備

### 【下北地域及びむつ総合病院の現状】

- ・金谷公園周辺には文化会館などの施設も隣接しており、大規模災害時には重要な避難施設が揃っている。
- ・今般の異常気象より、下北圏域でも大地震のみならず、大雨による大規模洪水などの様々な災害が今後発生する可能性が高い。



## 大きな柱6 金谷公園との一体的な機能の整備

### (1) 安全安心を支えるエリア拠点

災害ハザードエリアが含まれない金谷公園は、その面積も大きく、災害時には重要な避難施設となることから、大災害対応拠点となるむつ総合病院は、むつ市とともに、金谷公園との一体的な機能整備を図ることにより、安全安心を支えるエリア拠点として、都市の拠点性を高め、コンパクトシティの推進を図る。



## 大きな柱6 金谷公園との一体的な機能の整備

### 【下北地域及びむつ総合病院の現状】

- ・ 現病院内に患者さんが食事をしたり、待ち時間有効活用するスペースが不足している。
- ・ 金谷公園は、高齢者の方はグランドゴルフ、子どもは遊具などで遊ぶ、市内における数少ない、憩いの場となっている。
- ・ 金谷公園周辺には、キッズパーク、下北文化会館などの各施設が集積しており、それらの施設が、それぞれ、他の施設との連携を意識した取り組みによる新たな交流の拠点づくり（コミュニケーション・インフラ）が求められている。



休憩コーナー



## 大きな柱6 金谷公園との一体的な機能の整備

### (2)多世代交流の拠点

低層階は日中開放し、隣接する金谷公園と一体化した多目的ホールとし、コンビニ・カフェ等の利便施設や、赤ちゃんを連れたお母さんやお父さん、公園を散歩する方が休憩出来るスペースを設けるなど、多世代交流の拠点（コミュニケーション・インフラ）としての施設を整備する。

